

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・利用客の状況を見ると、いつ緊急事態宣言が出るかと恐る恐る過ごしていた3か月前の8月と比べて25%ほど増加している。国内の団体旅行客も徐々に増えてきており、景気が上向いていることを実感している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、商店街の来街者も徐々に増え始めている。ただ、新型コロナウイルス発生以前の状態には戻っていない。これから少しずつ以前の状態に近づいていくとみられるが、客の動向によくつかめない部分はまだある。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・少しずつ客の動きが上向いてきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることもあり、客足が少しずつ回復してきている。肌感覚ではあるが、来客数は以前の7～8割程度まで戻っている。夜の居酒屋なども予約が順調に入り始めており、週末の金曜、土曜は予約を取りづらい状況にまでなった。ただ、一次会で終わりというパターンが多く、二次会、三次会という流れにはなっていないことから、厳しい状況が依然として続いている。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・少しずつだが青果物の輸出が伸びてきている。
	○	一般小売店 [酒]（経営者）	単価の動き	・販売量はいまだに弱含みでの推移となっているが、前月に続き高額のシャンパン、ワインが好調であり、全体の売上をけん引している。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月の売上は前年と比べて大きく伸びている。ただ、前年は新型コロナウイルスの影響で売上を大きく落としていた時期であり、前々年の水準までには回復していない。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後から来客数が順調に伸びている。それに伴い買上客数も増加傾向にある。
	○	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が前年から2けたの伸びとなっており、改善の兆しがみられる。また、衣料品も前月と比べて動きが出てきている。ただ、客単価が低下していることから、来客数ほどの売上アップがみられない。
	○	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の推移を前年比で見ると、8月が83%、9月が91%、10月が95%、11月が26日時点で95%となっており、安定した動きになってきている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・前年11月は感染拡大防止に向けた集中対策期間となっていた時期であり、その分客が戻ってきている。また、国内の各業態でブラックフライデーがセールスの企画として浸透してきており、年間でもトップクラスの売上を稼ぎ出すほどに成長している。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響による減産が改善に向かっていることから、当社の売上も回復しつつある。また、コロナ禍に伴う緊急事態宣言が解除されたことで、観光関連や飲食店などの活気が戻りつつあることもプラスである。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、3か月前と比べると販売量が上向いてきている。ただ、景気が良くなったと感じるほどの販売量には達していない。
	○	その他専門店 [造花]（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除後、来客数や客の購入金額が上向いてきている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ワクチン接種率の向上に伴って新型コロナウイルスの新規感染者数が劇的に減少していることで、これまで外食を控えていた人が少しずつ外出するようになり、週末の来客数が増加している。また、夜間の営業を再開したこともプラスとなっている。景気が好転する兆しがみられ始めている。
○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・地方自治体による各種支援事業の効果で、個人旅行者、ビジネス客が回復する兆しがみられ始めている。	

○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・10月中旬以降、修学旅行などの団体旅行が動き出してきている。前年はGo To Travelキャンペーンによる需要回復が顕著にみられた時期であったため、前年比では回復基調にみえないが、10月後半から11月にかけての地元空港利用者は観光需要、生活需要のいずれも上向いている。
○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新規感染者数が落ち着いていることに加えて、北海道独自の宿泊旅行商品の割引制度の効果もあり、販売量が増えている。依然として道内旅行が中心ではあるが、3か月前と比べて道外旅行も増えてきている。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後から来客数や電話による問合せが増えている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・11月の売上について、稼働しているタクシー1台当たりで見ると、コロナ禍以前の前々年からはマイナス20%であるものの、前年からはプラス30%と回復傾向にある。ただ、コロナ禍の影響による乗務員不足によってタクシーの稼働率が低下しており、会社の収入は前々年比マイナス30%と厳しい状況が続いている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の客による利用も、夜間の飲食店帰りの客による利用もやや増加してきている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・乗降客数が前々年の70%程度まで回復するなど、少しずつ上向いてきている。ただ、新型コロナウイルス発生以前の水準まで回復するには数年掛かりそうだ。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道は新型コロナウイルスの影響で大変厳しい状況にあったが、ここに来て新規感染者数が大分減ってきたことで、人の動きが若干増えてきている。地元客の動きも水準としては低いですが、前年と比べると多少は増えている。ただ、第6波への警戒はまだ必要である。
○	タクシー運転手	お客様の様子	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少していることから、人の動きが徐々に回復傾向にある。前年比も110%まで回復している。ただ、海外での感染状況を見ると、いつ第6波が生じるのかと心配である。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることから、食事や旅行に出掛ける人が増えており、それに伴って髪のおしゃれにも気を遣う人が増えている。関連商材の売上も増加している。
○	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・年末に近づくにつれて、工事関連の輸送が増加している。このままの状況で年を越すものとみられる。
○	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・ウッドショックの影響で木材、建材などの価格が上昇しており、利益を押し上げている。その反面、原油高の影響でガソリンなどが値上がりし、コスト高になってきている部分もある。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから2か月が経過したが、当区域において景気が上向いている兆候は確認できない。平日の日中における歩行者は少ないままであり、夜型飲食店においても店舗外から確認する限り利用客の増加はみられない。また、道内他都市からの来街者は、区域内の駐車場の利用状況を見る限り増加しているとは判断できない。
□	一般小売店【土産】（経営者）	販売量の動き	・道外客、海外客の利用はいまだにほぼゼロであるが、11月に入っても雪がないこと、9月に東京で新規出店したことなどから、全体売上は増加している。
□	一般小売店【土産】（経営者）	お客様の様子	・観光客は少しずつ戻りつつあるものの、売店での買物やレストランでの飲食にまで人の動きが広がっていない。なるべく長い時間店内に滞留しないようにしたり、余計な買物をしないという客の様子がうかがえる。ここ最近の特徴として、特に年配客が増えてきていることが挙げられる。

□	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響がいまだにみられることから、景気は下げ止まりの状態のままで推移している。
□	スーパー（従業員）	来客数の動き	・コロナ禍によって落ち込んだ来客数の回復がみえてこない状況にある。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・原油価格の高騰やふだん消費する食品の値上げが相次いでいることから、家計の節約志向がみられ、消費が鈍っている。
□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・20時以降の来客数に伸びがみられない。
□	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・外出が増えていることで、前年と比べてアウター、コートの動きが改善しているが、スーツが稼働していないことから、客単価が非常に悪い。
□	家電量販店（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新規感染者数も少なくなったにもかかわらず、購買に結び付いてない。下見をしている客が多いと感じる。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・11月はタイヤ交換の時期であり、販売台数の目標が低く設定されているため、当店及び会社全体では目標を達成することができている。ただ、1～3月の繁忙期を迎えると、販売台数の目標が引き上げられるため、厳しい状況となる。
□	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・来客数、客単価の2点から判断すると、3か月前と大きな違いはみられず、売上もそれほど変わっていない。冬タイヤ購入者が若干増加しているものの、景気改善につながるほどのものではない。
□	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染対策でマスクを常備装着するようになってから2年近くが経過し、客のストレスが高まっている様子が感じられる。年末商戦への影響が心配される。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は回復しつつあるが、前々年の水準の5割にとどまるなど、前月と余り変わっていない。昼はまずまず良いが、夜は少人数での来店が多いこともあり、来客数がそれほど増えていない。振り客もほとんどみられない。クリスマス商戦については、ディナーの予約が入ってこない一方、有名洋菓子店のケーキ予約が人気なようであり、家庭での巣籠り傾向がうかがえる。安い価格で若い客が多い店も、好調なのは夜の早い時間帯だけと聞く。そろそろスタッフを再雇用又は新規雇用したいと考えているが、会社の対応は渋い。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・感染拡大が終息し、緊急事態宣言も解除されたことから、人流が回復する機運が高まっているものの、再度の感染拡大への不安があることから、実際の動きにつながっていない。
□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・北海道による宿泊旅行商品の割引制度などはあるものの、道内客の利用が中心となっていることから、予約が週末に偏っており、集客も限定的となっている。全国からの集客効果が期待できるGo To Travelキャンペーンが始まらない限り、需要回復は難しい。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・各種施策の効果がまだ出ていないため、景気は変わらない。第6波への不安もある。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況がやや落ち着いていることから、外出する人が増えており、それに伴って美容室の来客数もやや増えてきている。ただ、完全に元の生活に戻るまでにはまだまだ時間が掛かる。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くにつれて、飲食店や百貨店への客足が増加しており、その影響で食品スーパーでの買い回りが減少している。特に買上点数の減少が目立っている。
▲	スーパー（企画担当）	単価の動き	・9月頃から商材の仕入価格が上がってきている。10月にはたばこも値上がりし、商品単価が上昇していることから、客の買上点数が少なくなっている。欲しくても買わずに我慢している様子がうかがえる。

	▲	スーパー（役員）	販売量の動き	・当店では緊急事態宣言が解除されてから、夜間の売上が落ちてきている。外食する人が多くなり、家で食事する人が減少したためとみられる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・周辺の飲食店の営業時間をみても、いまだに1～2時間の短縮営業を行っている店が多い。コロナ禍以前の状況とはほど遠く、夜間の客の動きはまだ回復しきっていない。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、行動範囲が広がっており、それに伴って消費が拡大するとみられるが、不漁や天候要因などによるマイナスの影響が大きいと、景気はやや悪くなっている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車両の投入もあり、売上が伸びるとみていたが、見込みほどの伸びはなかった。ガソリンや食品などの価格上昇などによって先行きへの不安が高まっていることで、耐久消費財である自動車の購入が後回しになっているとみられる。
	▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・原油価格の高騰に伴う石油製品価格の上昇により、節約志向が強まっており、販売量が減少傾向にある。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・少しずつ売上は良くなっているが、コロナ禍以前の3～4割程度の水準にとどまっている。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・運送収入が回復する兆しはみられるものの、夜間の人出、観光需要などは個人利用が中心となっていることもあり、力強い回復とはなっていない。
	▲	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・競合相手が端末価格で勝負してくるなか、半導体不足に伴う深刻な在庫不足の影響によって、価格面で対抗できる同等の通信機器の納入が大幅に遅れており、需要を取り込むチャンスを失っている。客の流出も増えている。特に大型商業施設などでの出張販売において、集客で負けるケースがみられる。
	×	—	—	—
企業 動向 関連	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月の販売量は前年比マイナス17%であったが、3か月前の8月の販売量は前年比マイナス40%だったことから、景気は改善傾向にある。
(北海道)	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることで良い傾向となっている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年と比べて降雪が少ないことから、各現場が順調に工事追い込み期を迎えている。完工高は年度計画には届かないものの、好天による工期短縮と追加工事の上積みで、利益は計画達成のめどが立った。
	○	その他サービス業 [ソフトウェア開発]（経営者）	競争相手の様子	・同業から技術者を借りようとしても、手の空いている人材や空きそうな人材がほとんどいない。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量はやや回復してきているが、新型コロナウイルス発生以前の水準まではまだまだである。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・11月の本州向け生乳の輸送量は前年の9割程度であり、4か月連続での前年割れとなった。一方、バターと粉乳の在庫量は前年から2～4割のアップとなっている。飲料を中心とした一般雑貨の荷動きも出始めているが、水準としてはまだまだ物足りない状況が続いている。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大きく変化するような要素が見当たらない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・半導体不足の影響で新車の販売台数が大きく落ち込んでいる。また、原油価格の高騰により、ガソリン、灯油などが値上がりし、持ち直し基調にあった個人消費の重荷になっている。こうした背景から足元の道内景気は足踏み傾向がみられ、3か月前と変わらない状況となっている。

	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響によって経済が落ち込んでいるなか、感染状況が落ち着きをみせていることで各種の規制も緩和しつつある。ただ、新型コロナウイルスへの警戒心がまだまだ強いので、景気は一足飛びに回復するものではなく、徐々に少しずつ回復することになる。
	□	司法書士	取引先の様子	・例年11月は冬期間に入るため、取引先の建築業や不動産業においても8月頃と比べて仕事量が減る傾向にあるが、今年は8月が緊急事態宣言の期間中であったことから、その期間の仕事がずれ込んできている。その結果、コロナ禍においても例年と変わらない仕事量がみられる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・現状、都市部は民間需要による建築工事があり、まずまずの水準で推移している。一方、地方は公共工事の案件があるものの、今一つである。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は引き続き前年並みで推移している。来年度については、景気対策として公共事業が展開される見込みがあることから、業績が堅調に推移するとみられる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・在庫不足や納期遅れなどが生じており、発注してもすぐに納品されない状況となっている。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月に入りベース商材の動きが鈍くなってきているが、物件の納入などはできており、売上は大きく落ち込んでいない。ただ、景況感としては余り良くない。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・建設関係において、資材価格の上昇に加えて、職人などの労働力不足が懸念されている。中心部の再開発に伴って、こうした傾向が一層加速することが懸念されるが、施工各社では対策が採れていない状況にある。再開発に携わっている企業はまだ良いが、携わっていない企業では仕事が1つも取れない状況に追い込まれるのではと危惧している。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向で推移している。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を受けて、ここ2年の減収を回復すべく企業が人材の採用に動き出している。また、人材側も転職に向けて動き出している。当社が求人企業を紹介し、内定が出た場合も、他の求人企業からも内定を得ている求職者数が多く、内定辞退が前年よりも増えている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・中心部の繁華街における飲食店などの様子をみると、今年の春～夏に比べれば客足は戻ってきている。ただ、その伸びは限定的であり、期待していた求人件数も伸び悩んでいる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・飲食店や小売店などの募集が徐々に回復してきている。また、これから国内の観光需要が拡大するとみられるため、宿泊施設や道内観光地への人が徐々に戻ってくるとみられることもプラスである。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、業種を問わず求人ニーズが高まってきている。経済活動が堅調に動き出している様子がうかがえる。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における10月の有効求人倍率は0.88倍であり、3か月前と比べると0.03ポイント上昇している。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・道内私大の来春新卒者の内定率は89%程度となっている。新型コロナウイルス発生以前の2020年の91%程度には及ばないものの、2021年と比べると3～4%ほど高く推移している。飲食業、旅行業など、まだまだ先行きが不透明な業界では慎重な姿勢が続いているものの、全体的にはようやく明るさがみえてきた。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地では新型コロナウイルスのクラスターが多発するなど、新規感染者がいまだに多くみられる。繁華街のイベントも中止になっており、特に緊急事態宣言の解除に伴って好転が期待された飲食業や観光業界の動向に水を差している。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきているが、当地においては一定の感染者が出ている状況にある。そのため、3か月前と比べて有効求人倍率に特段の変化もみられず、雇用情勢は大きく変わっていない。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・10月の有効求人数は前年から0.11ポイントの増加となった。一方、新規求人数は前年とほぼ同水準で推移している。
▲	*	*	*
×	—	—	—